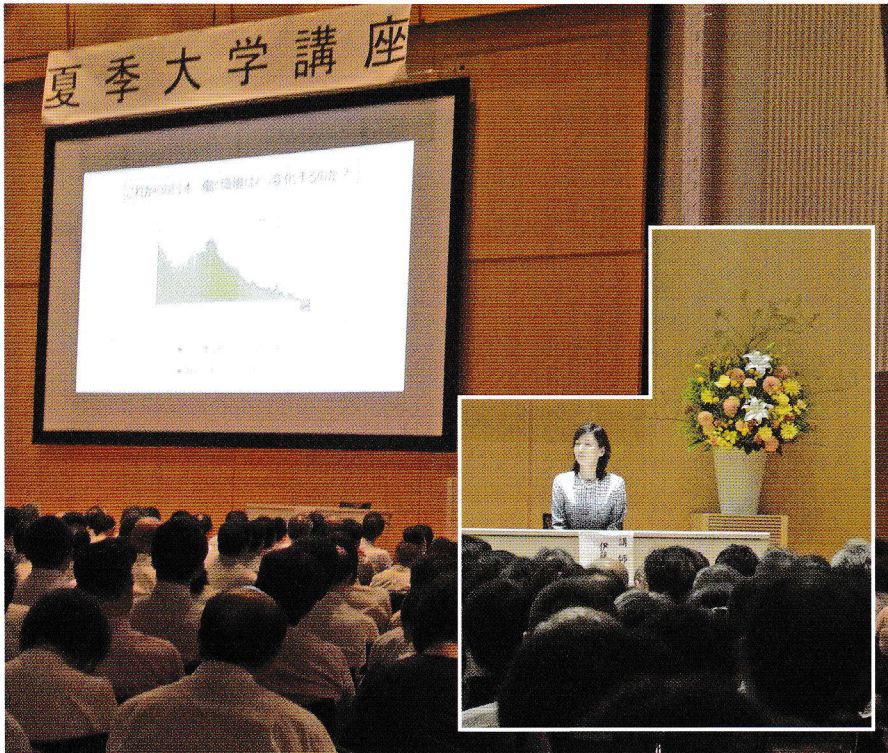




第85号
 公益財団法人新潟教育会
 (新潟教育会館内)
 代表理事 川端 弘実
 〒950-8104
 新潟市中央区西大畑町590番地3
 TEL/FAX 025-222-2971
 URL <http://kyouikukai.jp>
 E-mail 事務局 jimu@kyouikukai.jp
 研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp
 休館日 月曜日



講師プロフィール

フリーキャスター、
 事業創造大学院大学客員教授
 1967年、新潟県生まれ
 ■出演番組
 「ひるおび！」(TBS)
 水曜レギュラーコメンテーター
 「ウェークアップ! ぶらす」(読売テレビ)
 コメンテーター
 「パズル」(文化放送)
 火曜コメンテーター
 「伊藤聡子と新潟の経営者」
 (新潟FMKento)

活動

事業創造大学院大学MBA
 経済産業省長期地球温暖化対策
 プラットフォーム 委員
 内閣府原子力損害賠償制度専門部会
 委員
 経済産業省総合エネルギー調査会
 臨時委員
 文部科学省原子力科学技術委員会
 委員
 新潟市文化創造推進委員会 委員
 JICAなんとかしなきゃ!
 プロジェクトメンバー
 糸魚川ジオパーク大使
 きき酒師

平成29年度 夏季大学講座

開催日時 8月6日(日)
 会場 朱鷺メッセ マリンホール
 講師 伊藤 聡子 様
 演題 「これからの学校づくりに期待すること」

新潟への愛情と

学校への期待

長岡市立福戸小学校

高橋 道子

ご講演の最初から最後まで「新潟は...」
 「新潟の人は...」と何度も「新潟」を
 耳にした。県外にいても海外にいても伊
 藤聡子様の中にはいつも「新潟」がある。
 そんな新潟愛を感じながら、学校づくりに
 期待されることを聴いた。

一番心に響いたことは、社会を変える
 リーダーを求められたことだ。社会の変
 化に対応できる力を付けるだけでなく、
 社会を変化させる人を育てる。それには
 能力と人間性に加えて芯がなくてはなら
 ない。子どもの可能性を広げる学校づく
 りをしなければとほげまされた。

学ぶ楽しさを

新潟市立浜浦小学校

青池 智美

これからの社会では、自分の人生のマ
 ネジメント力、豊かな発想力、そして個
 性が求められるというお話であった。

伊藤さんが取材した地元企業の「技術
 はある。あとは、発想次第でいろいろな
 課題が解決できるのだ。」という事例は、
 大変説得力があった。聞けば聞くほど、
 学校を出てからも必要な知識・技能を自
 分で身に付けるために、学び続けていか
 なければならぬことを実感した。

だからこそ、将来それぞれの道を歩い
 ていく子どもたちに、学校で学ぶ楽しさ
 を伝えていきたいと思う。

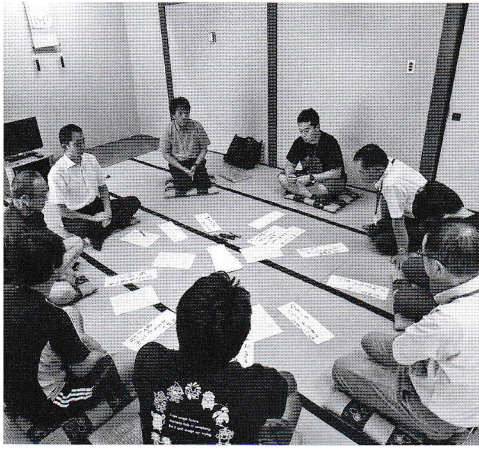
第43回 教育相談研修会

平成29年8月17日(木)～19日(土)
会場 じよいあす新潟会館
受講生 23人

今求められている児童生徒と教師の信頼関係づくりや心の交流の在り方、心理臨床のカウンセリングについて、実習を通して身に付けることをねらいとする体験研修を実施しました。

【受講生の声】
▼(簡単)受容、繰り返し、要約、質問：と、聴き方についてたくさん学ばせていただきました。

私は、会話ならどんな話でも続ける(話す側、聴く側としても)自信がありました。しかし、今回のカウンセリングは、会話とは違いました。



- 指導者**
(敬称略順不同)
- 新井 秀和
 - 生田 雅之
 - 前山 和彦
 - 井筒 正之
 - 斉藤 毅
 - 戸川 美子
 - 木澤 弘
 - 山田 喜浩
 - 村山 敬介
 - 鈴木 正彦
 - 吉田島 真樹
 - 門野 慎一
 - 山口真 希子
 - 中島 宗由
 - 庄司 由希
 - 丸山 綾子
 - 川上 信也
 - 岡 信也

受容は、相手によって、話の内容によって使い分けなどがありました。繰り返しは、ただ繰り返すのではなく、意味のあるところ、効果のあるところで使う必要がありました。要約は、あらずじではない。そして、自分が理解するためというより、相手の話を整理するためにする必要がありました。質問は、自分が興味のあることではなく、話題に沿った質問をする必要がありました。会話は違う「聴く」ということの大変さ大切さを、この二泊三日の実習で学ぶことができました。

保護者は今のところ年上の方たちばかりなので、今回全然知らない年上の先輩方と話ができたというのも、とてもいい経験になりました。

机とイスではなく、和室でたたみの上で実習するのがとてもいいなあと思いましたが。ありがとうございました。

▼相談の研修は、どれだけやっても、いえ、やればやるほど難しさにつきあたります。今回のこの研修でも、自分のできていないところや、やってしまいがちなパターン、人の話を聴くことの怖さを感じながら時間を過ごしてきました。けれど、連続した三日間の研修ということで、気づきを次の回に生かしてみることができました。この次の機会があるということ、何を語っても大丈夫！ALL OK!の雰囲気講師の皆様がつくってくださったことに深く感謝しております。

講師の方の言葉「生きるって重いですよね」の一言が胸に残っています。生きていく中で、持ってしまった悩み、持たされてしまった荷物を、ひとりずつ持っていくのは大変です。子どもたち・保護者・同僚、そして、となり合った人たちの荷物(悩み)をその人ごと丸ごと受け止められるような聴き方をしている人間になりたいと思います。学びの道がスタートしたと思っています。

来年度の研修会実施予定

8月16日(木)～18日(土)
「じよいあす新潟会館」にて
二泊三日の日程
※最終日は、午前で終了

保護者のためのカウンセリング講座

平成29年9月3日(日)
会場 新潟教育会館
参加者 7人

新潟市教育相談センターの山田友明氏を指導者として、保護者のためのカウンセリング講座を開きました。

【参加者の声】

▼話をきいてあげることは、なかなか出なってしまうのに、どうしたらいいのか悩んでいましたが、この講座を受講して、具体的な接し方・きき方が分かり、とても良かったです。上手にきけるのか少し不安もありますが、今日のことを思い出して、子どもと接して行きたいと思っています。

▼「大丈夫？」という言葉がけがNGワードとは、確かに、そう尋ねられたら、「大丈夫」と言い返されそう。納得しました。Yes・Noでしか答えられない質問はひかえようと思いました。

第九回 教師力アップ講座

期日 平成29年7月30日(日)
会場 新潟教育会館
受講者 延べ45人

この講座の特徴は、参加型の研修、受講選択制の研修、すぐに役立つ研修の三つです。本年は、二講座を実施しました。講座内容等の詳細は、新潟教育研究所発行の「所報」をご覧ください。

▼第一講座

「主体的・対話的で深い学びのための
タブレット端末活用」
講師 片山 敏郎 様

▼第二講座

「主体的・対話的で深い学びのスター
トラインにつく学級集団づくり
～エンカウンターの新しい展開～」
講師 吉澤 克彦 様
上級教育カウンセラー

新潟大学教職大学院教授

来年度の講座実施予定 7月29日(日)
新潟教育会館にて

特別支援教育 助成金授与式

期日 平成29年11月14日(火)
会場 新潟教育会館

本年度の特別支援教育助成校6校に対する助成金授与式が開催されました。

該当6校は、各地区の特別支援教育担当指導主事から推薦されてきた学校(学級)の中から、選考委員会(9月)で審査され、理事会(10月)を経て決定されました。助成金は五〇、〇〇〇円です。

この事業は、昭和47年以来続いているもので、助成した学校(学級)は、363校(学級)にのぼっています。

当時の会報第1号(昭和48年3月発行)に、次のような掲載記事がありました。

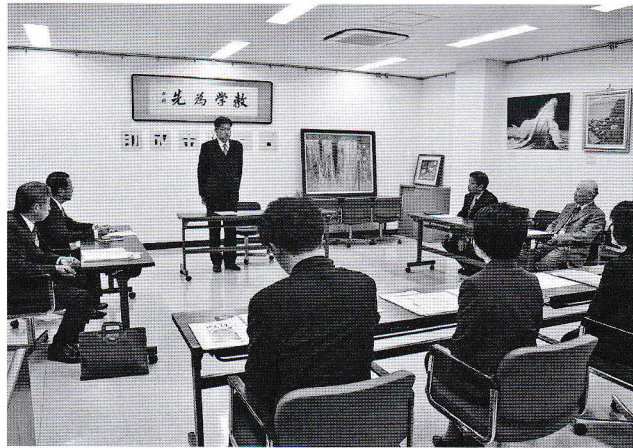
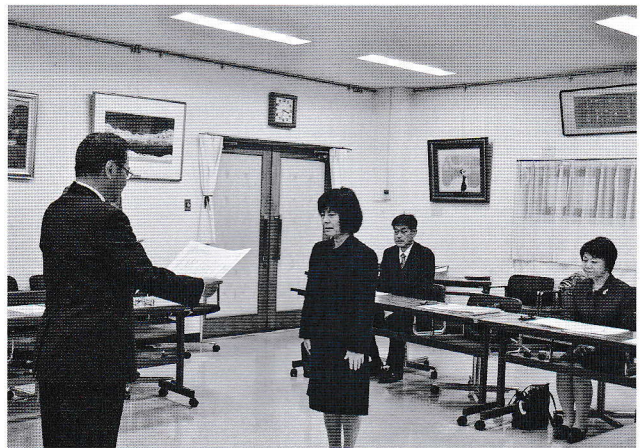
「財団法人新潟教育会の大きな事業である特殊教育助成事業はつぎのように進められた。県下には多数の特殊学級がある。この多くの特殊学級の中から新潟教育会特殊教育助成規定にあわせて下記の審査委員の方々から慎重に審査していただき、1学級二〇、〇〇〇円ずつ助成事業を推進することができた。」
(以下、助成校名及び審査委員名は省略)

※当時の原文のまま掲載しましたので、現在にそぐわない表記があります。すことはご了承ください。

当会では、これからも県内の特別支援教育に努力されている学校(学級)に対する助成を継続したいと考えています。

なお、助成された学校の取り組みについては、当会発行の「新潟教育会報」第

87号(平成30年6月発行予定)に掲載いたします。



平成29年度 特別支援教育助成校

◎三上市立裏館小学校
発達障害指導教室

言語障害通級指導教室
難聴通級指導教室

知的障害特別支援学級
自閉症・情緒障害特別支援学級

◎新発田市立外ヶ輪小学校
言語障害通級指導教室

知的障害特別支援学級
自閉症・情緒障害特別支援学級

◎新潟市立早通南小学校
知的障がい特別支援学級

自閉症・情緒障がい特別支援学級

◎妙高市立新井中学校
知的障害特別支援学級

自閉症・情緒障害特別支援学級
肢体不自由特別支援学級
発達障害通級指導教室

◎長岡市立越路中学校
知的障害特別支援学級

自閉症・情緒障害特別支援学級

◎佐渡市立金井中学校
発達障害通級指導教室

知的障害特別支援学級
自閉症・情緒障害特別支援学級

教育資料室からのお知らせ

教育資料室の整備は、以前会報に掲載しました左記一〜三に沿って作業(資料の廃棄、新規配架等)を進めております。現在は「空きスペースの確保」「新規配架」「データベース作成の準備」等を行っています。

一 現存資料で今後も保存する資料

- 1 新潟教育会の資料
 - 2 教育史上の貴重な資料
 - 3 教育関係諸機関の記念誌、名簿など
 - 4 県内の師範学校にかかわる資料
 - 5 新潟県内の教育資料
- 二 今後収集・保存する資料
- 1〜4の資料
- 三 活用しやすい資料室に向けて
- 保存資料以外は他へ移動又は廃棄する
 - 蔵書データベースを作成し、活用する

右記1〜4を寄贈いただく場合、事前に電話やメール等でお知らせください。

○提供される資料の全てをお受けできない場合があります。

○寄贈後の保管・管理・活用・廃棄など一切を教育会にお任せ願います。

資料室の整備・寄贈資料の受入・蔵書データベースの作成等は「資料選定委員会」を中心に取り組んでいます。

《資料選定委員会》

- 斎藤寿一郎(委員長) 伊藤 充
- 羽入正路 川端弘実 熊倉忠夫
- 樋口光栄 五十嵐幹郎

『教美展』 来年は出品してみようかな！

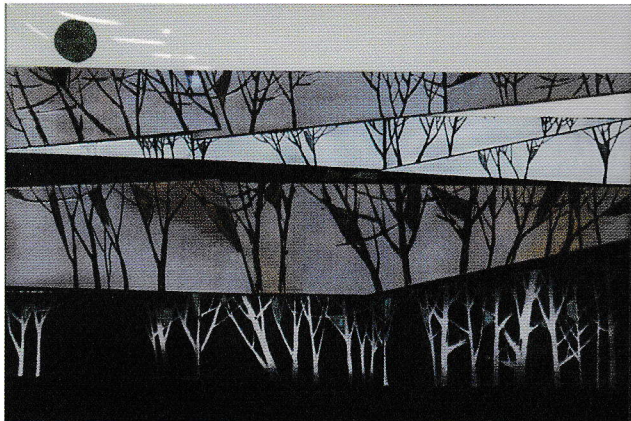


教美展実行委員長
日 諸 博 美

昨年度、第二十回展という記念すべき節目の年を迎えた『教美展』、今年度は、新たな歩みを進める一年目と実行委員一同取り組んでまいりました。お陰様で出品点数百十四点、展覧会来場者数も千人を超えることができ、喜んでいただいております。

『教美展』開催に向けて、毎年各二回の「小委員会」と「実行委員会」が開催され、さらに展覧会前日の作品搬入受付と展示作業、展覧会最終日には作品返却業務に会場復帰作業と活動は通年に及びます。特に事務局の尽力、御苦労には感謝をしております。

ある出品者が、「教美展」は、各種コンクール展と違い、《誰でも》無審査、無料で出品でき、しかも約一週間もの期間、県民会館のギャラリーに出品作品を展示していただける価値ある貴重な展覧会である。」と歓迎の声を聞かせてくれました。出品者の一人でもある私自身も、たくさんの同感であります。この《誰でも》というのが大事で、出品者の中には、各部門それぞれプロ級以上の方もおられるば、趣味で制作した作品を出品される方々様々です。そして、このことが「教美展」最大の魅力であると思っています。皆さん、一切の遠慮、気兼ねはいりません。是非、是非来年度は、あなたも出品してみませんか。お待ちしております。




「冬の月」(七宝焼き) 大川 栄子



第21回 教美展
(新潟教育会美術展)
日本画・洋画・版画・彫塑・工芸・書道・写真

入場無料




平成29年 **10月25日(水)~10月31日(火)**
作品鑑賞・解説会 10月28日(土) 午後1時~2時30分

新潟県民会館 ギャラリーA (3F)
主催 公益財団法人新潟教育会

後援 新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県小・中学校長会、新潟市美術協会、新潟市美術協会、新潟県美術教育連盟、新潟県美術家連盟、新潟市美術協会、(一財)新潟日報美術新聞社、(公財)日本教育公開推進協会新潟支部、(一財)新潟県教育員厚生財団、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N.S.T. ToNYテレビ新潟、U-X新潟テレビ21、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局



「おとうちゃん」(陶人形)
小林 美智

▼今号では、本年度計画していた事業のうち、これまで実施した事業の概要を掲載しました。
▼新たな歩みを進める一年目の「教美展」を、盛会裏に終了することができました。ご支援を感謝しその様子を掲載しました。
▼新潟教育会ならではの「教育資料室」を目指しての整備状況もお知らせします。

あとがき



次回の『教美展』の予定
平成31年 1月10日(木)~16日(水)